

海老つけ麺を即席やきそばで再現

ペヤングと初のコラボ エビの芳醇な香りと旨味

青梅市

五ノ神製作所

ペヤングで知られる「まるか食品」（群馬県伊勢崎市）が6月2日、ラーメン店を展開する「五ノ神製作所」（青梅市新町）とコラボした即席めん「ペヤングやきそば海老つけ麺味」を発売した。

具材は豚肉とキャベツ。五ノ神製作所の伊藤真啓社長は「香ばしいエビの風味を再現できた。エビ好きにはたまらない仕上がりになった」と自信を見せる。「エビの芳醇な香りと旨みを存分に感じることができる特製ソースが麺とよく絡み、最後まで飽きずに楽しめる」という。

同社は今年で創業18年。紆余曲折もあり、順風満帆ではなかったが、昼夜問わず行列ができるラーメン店に成長した。えびつけ麺は創業の翌年から提供している。「シーフード

ヌードルが大好きで、えびせんを加えるとおいしかった。この味を作りたいと思い完成したのがえびつけ麺だった」と伊藤社長は振り返る。

新たな味の開発には意欲的で、通常捨てられてしまう食材などにも着目。奥多摩やまめのアラをふんだんに使った「奥多摩産やまめ中華そば」や「銀だらのペヤングもラーメン店と初めてタッグ

を組んだ。伊藤社長は「即席めん焼きそばと言えぱペヤングしか知らない世代。コラボは光栄の一言に尽きる。ラーメンは井の中に人が人生と向き合う元気が凝縮されている。国境がない地球食。素晴らしい」と意気込む。

その言葉通り有名ラーメン店主らが主宰するラーメン職人育成のためのラーメン学校「ラ塾」にも携わる。希望小売価格は250円（税別）。今回は20万食を出荷する。ベトナム、タイ、ドロン・キホーテなど全店のスーパー、ドラッグストアなどで扱う。

中でも話題となったのが、難易度の高い工芸品と手作りの鉄道ジオラマ。壊れたおもちゃを無償で修理する「おもちゃの病院ねじまわし」が発足25周年を記念した「夢と生きたもので、工作好きや鉄道ファン、一般市民を楽しました。」と顔をほころばす。

転車台のある手作り鉄道ジオラマが話題に

このうち大作の「転車台のある駅」と題したジオラマのサイズは210センチ×60センチ。Nゲージで駅舎や線路、転車台と車庫、駅前の町並みなどを再現している。汽車は手動と自動運転で走り、転車台から車庫へ入庫できる。

ジオラマを製作したのは馬場見良樹さん。写真中央。中学生時代に創作の楽しさを知り、「転車台のある駅」は1年ほどかけて製作。手動で運転できるが、会員の斉藤孝さんが自動運転もできるようにしてくれたと顔をほころばす。

山口脩会長（左）は「おもちゃは子どもの発達の上で重要。愛着のあるものは直していつでも使ってほしい。故障しても直せることを伝え、生活に役立つ技術の楽しさを伝えたい」と話す。

コラボは光栄の一言に尽きると伊藤社長。インパクトのあるパッケージ



ダイヤモンド賞を受けたアクセルオートの樋口社長（左）

ダイハツ東京 優秀販売店表彰 アクセルオート2部門で1位

ダイハツ東京は、都内のホテルで2025年度販売店大会を開催した。優秀販売店の表彰で、アクセルオート（本社・青梅市新町）が新車、部品の両部門で1位となり、最高位のダイヤモンド賞を受賞した。

大会は協力販売店の代表者を招待して開催され、25年度の販売方針を共有し、目標達成に向け意欲を高めた。

ダイハツ東京の小林幸彦社長は「ダイハツ

車の販売を支えてもらっている販売店とともに、選ばれ、愛され続けるナンバーワンを目指したい」と決意を披露した。

アクセルオートは、東京唯一のダイハツ工

業公認のダイハツショップ、「ダイハツショップ福生田園」を含む5店舗を青梅市、羽村市、福生市で展開。ダイヤモンド賞は10年連続の受賞になった。

樋口昭久社長「販売台数・部品売上高ともに東京都第1位となり、最高位『ダイヤモンド賞』を受賞しました。10年連続の都内トップという成績を、設立35周年の節目にいただいたこと、心より感謝申し上げます。日頃より支えてくださる地域のお客さま、日々努力を重ねてくれる全社員に深くお礼申し上げます。今後も、『心からのありがとうと笑顔を地域に届ける会社』として、挑戦と進化を続けてまいります」



難易度の高い工芸品と手作りの鉄道ジオラマが話題になった「おもちゃの病院ねじまわし」

山口脩会長（左）は「おもちゃは子どもの発達の上で重要。愛着のあるものは直していつでも使ってほしい。故障しても直せることを伝え、生活に役立つ技術の楽しさを伝えたい」と話す。